

わちエだより

題字 吉田蒼月

Vol.42

平成28年(2016年)
9月発行

診療情報

小児科

専門医の診断を受け、適切な対応を
知っておきたい
子どもの食物アレルギー

地域の子どもたちの笑顔を、
専門性の高い医療で支えます

八千代病院 小児科部長
安藤仁志 医師

診療情報

安城市認知症初期集中支援チーム

トピックス

副院長・内科部長 小鳥達也医師が、
ミャンマーで消化器内視鏡診療の
技術指導

子どもに多い病気のひとつで、近年患者さんが増加している「食物アレルギー」。今回はアレルギー専門医が、小児食物アレルギーの基礎知識と診断を受ける上で知っておきたいポイントを解説します。

基礎知識

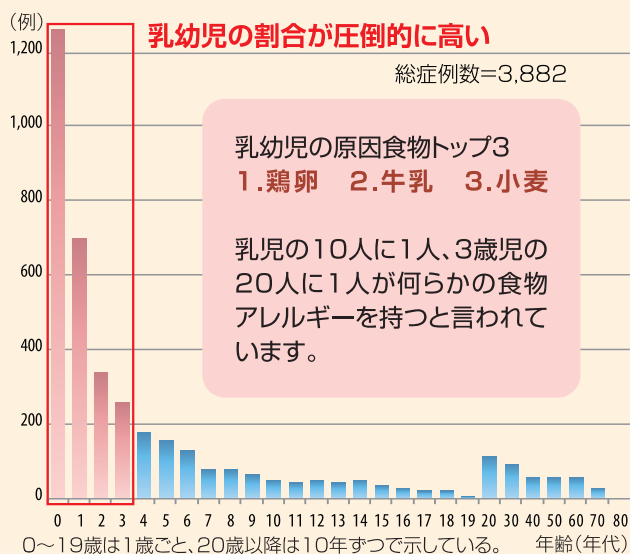
乳幼児期に多く発症し、時に重篤な症状を引き起こす。

食物アレルギーは、特定の食品を飲食することで体内の免疫システムが過剰に反応してしまい、アレルギー症状を引き起こす病気です。原因となる食品や症状はさまざまですが、主な症状としては、じんましんやかゆみ、鼻水や咳、腹痛・嘔吐・下痢などが挙げられます。また、複数の臓器にわたり症状が急激に現れる「アナフィラキシー」や、血圧低下や意識障害を伴う「アナフィラキシーショック」など、時に命に関わる状態に至ることもあり、日常生活を送る上で注意が必要です。

右図出典：日本アレルギー学会食物委員会作成
「食物アレルギー診療ガイドライン2012」

※食物摂取後60分以内に症状が現れ、医療機関を受診した患者

●年齢別即時型食物アレルギー患者数※



●食物アレルギーの症状

皮膚

- ・赤み
- ・かゆみ
- ・じんましん
- ・湿疹

消化器

- ・腹痛
- ・下痢
- ・吐き気、嘔吐

目

- ・充血
- ・かゆみ
- ・まぶたの腫れ

呼吸器

- ・くしゃみ
- ・鼻水
- ・咳
- ・ゼーゼー
- ・呼吸困難

全身

- ・アナフィラキシー

これらの症状は他の病気であっても起こりうるため判断が難しいのですが、特定の食物を食べたときに症状が出る場合や、皮膚湿疹などで治療・ケアを続けているのになかなか症状が改善しない場合は、食物アレルギーが原因の可能性もあります。一度専門医の受診をご検討ください。

アレルギー専門医がお答えします。

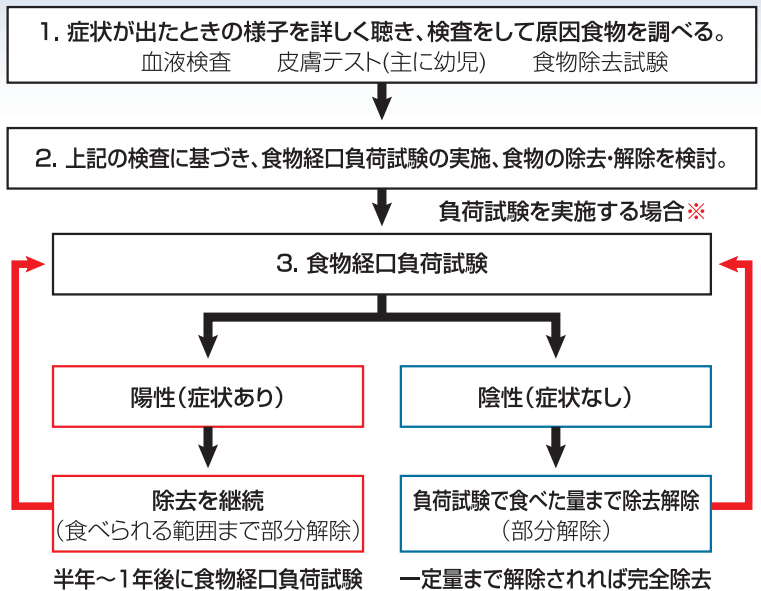
小児食物アレルギーQ&A

Q 食物アレルギーの診断はどのようにするのですか。

食物アレルギーは、問診と各種検査により総合的に診断します。検査では血液検査・皮膚テストのほか、必要に応じて「食物経口負荷試験」を実施し、結果をもとに保護者の方とよく相談して、除去や摂取などの治療プランを立てていきます。

※問診で因果関係が明らかな場合や、食物経口負荷試験で陽性となる可能性が高い場合、また乳児には負荷試験を行わない場合があります。

●食物アレルギーの診断手順



●食物経口負荷試験●

アレルギーが疑われる食品を少しずつ実際に食べてみて症状を観察するものです。食物アレルギーの検査法では、血液検査と皮膚テストが一般的ですが、実はこれらの検査だけでは正しく判断することができません。検査が陽性でも必ず症状が出るとは限らず、陰性であってもごくまれに症状が出る場合があるからです。正しく診断するには、「食物経口負荷試験」が最も確実な方法だとされています。

食物経口負荷試験の目的

- ①アレルギーの原因食物を特定する。
- ②どのくらいの量を食べたらどんな症状が出るかを確認する。
- ③アレルギーが治ったかどうかを確認する。

食物経口負荷試験はアナフィラキシーが起こる可能性もあるため、専門医のもと設備の整った施設で行う必要があります。当地域で実施している医療機関は多くありません。八千代病院は数少ない実施機関のひとつであり、アレルギーを専門とする小児科医のもと、症状出現時の対応に万全を期して、負荷試験を行っています。



Q 食物経口負荷試験はどのタイミングで受けたらいいですか。

食物経口負荷試験を検討しているお子さんは、できれば入園・入学など集団生活を始める前に受けておくことをお勧めします。

食物アレルギーのお子さんが集団生活を始める際には、給食などさまざまな注意が必要になります。安全に集団生活を送れるよう、正確な診断を受けた上で園や学校と情報を共有し、症状を防ぐとともに、症状が出た時の対応をよく話し合っておくことが大切です。

Q 卵アレルギーで除去を続けていますが、解除はどのように進めたらいいですか。

乳幼児期に発症した食物アレルギーの多くは、成長とともに免疫・消化機能が発達するのに伴って、自然に治癒していきます。しかしその過程には個人差があり、アレルギーの症状が長引くこともあります。

したがって半年～1年に1度、定期的な検査を受け、医師の判断をあおぎましょう。再評価を受けることで不必要な除去の継続を防ぎ、安全に解除を進めることができます。



八千代病院 小児科部長
安藤 仁志 医師

地域の子どもたちの笑顔を、 専門性の高い医療で支えます。

アレルギー専門医として、多くのお子さんの診断・治療実績を持つ安藤医師。今年4月に八千代病院小児科部長に就任し、当院でも小児アレルギー疾患の診療に力を入れています。先生に、小児アレルギーの現状と当院での治療についてうかがいました。

増加する子どものアレルギー疾患に、正確な診断と知識で応える。

近年、食物アレルギーをはじめとするアレルギー疾患を持つお子さんは増加しています。一方で、アレルギーを専門に診られる小児科医や施設は少なく、患者さん・ご家族は対応に苦慮されています。また情報社会と言われる昨今では、巷にさまざまな情報が溢れており、かえって保護者の方々の不安を助長したり、自己判断で不適切な対処をして症状を悪化させてしまう

ケースもみられます。

アレルギー疾患は、何より正確な診断と、正しい根拠に基づく治療が大切です。私はこれまでアレルギー専門医として、数多くのお子さんの診断・治療に携わってきました。その知識と経験を、地域でアレルギーに悩むお子さん・ご家族のために役立てることができればと考えています。

食物アレルギーへの対応は、正しい診断に基づく最小限の除去が基本。

食物アレルギーに対しては、これまで原因となる食物をまったく食べない「完全除去」という方法が多く取られてきました。しかし、成長期のお子さんが完全除去を続けるのは栄養不足を招く恐れがありますし、ご本人・ご家族は生活上さまざまな負担を強いられることとなります。そこで近年は安全に食べられる量を「食物経口負荷試験」という検査で確かめ、摂取できる量は積極的に食べる方法が推奨されるようになりました。

食物経口負荷試験の信頼性は前述(p2参照)した通りですが、血液検査の結果や自己診断だけで食物アレルギーだと思い込んでいる人は少なくありません。実際に負荷試験をすると、たくさんは食べられなくても、少量なら食べられる、あるいは加工することで食べられるケースがほとんどです。

「あれもダメ。これもダメ」ではなく、お子さんたちの「〇〇が食べられるようになった。〇〇ができるように

なった」という笑顔を増やしていくこと。そのために私たち専門家が力になります。

当院ではアレルギー専門医のほかに、小児アレルギーエドゥケーターの資格を持つ薬剤師・看護師や栄養士らが治療に関わり、日常のケアを丁寧に指導します。

アレルギーに限らず、予防接種や一般的な疾患にも幅広く対応しています。お子さんの健康のことで心配事がありましたら、私たちに相談ください。

小児アレルギーエドゥケーターとは

日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会より認定された、小児アレルギーの専門知識を有するスペシャリストです。アレルギー疾患の多くは、長期的な治療と自己管理が必要になります。患者さんにご家族が日常生活で適切なケアを継続できるように教育・指導したり、情報を提供するのが小児アレルギーエドゥケーターの役割です。

食物経口負荷試験をご希望の方

八千代病院では、1泊2日の入院により食物経口負荷試験を行っています。ご希望の方は、まず小児科外来を受診してください。診察の上、試験の適応かどうか判断させていただきます。

※食物経口負荷試験は、重篤なアレルギー症状を引き起こす危険性もあるため、家庭では決して行わないでください。

【問い合わせ先】

小児科外来 ☎0566-97-8111 (代表)
問い合わせ受付時間 月～金曜日 14:00～16:00
外来診療日時 月～土曜日 8:30～12:00
(第1・3土曜日を除く)

安城市認知症初期集中支援チーム

八千代病院は2013年2月に愛知県の指定を受け、認知症の診断と治療に特化した愛知県認知症疾患医療センターを院内に開設しました。そして今年4月、安城市の委託により、センター内に新たに「安城市認知症初期集中支援チーム」を発足しました。ここではその役割と利用方法についてご案内します。



認知症初期集中支援チームとは？

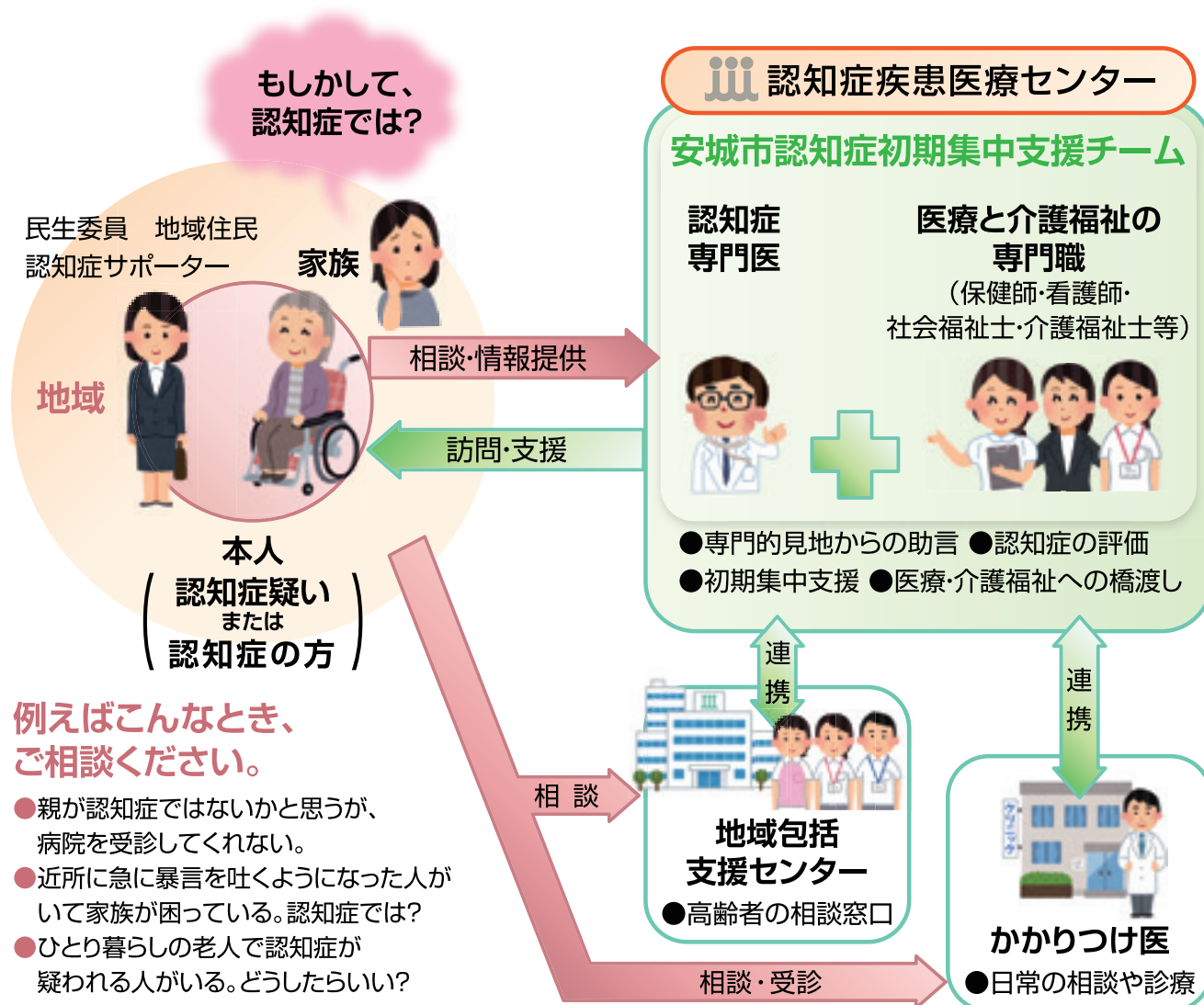


ご家族の訴えなどにより、認知症が疑われる方や認知症の方およびそのご家族を訪問して、認知症に対する適切な治療につなげるとともに、必要な医療・介護が受けられるよう初期(※)の支援を集中的に行います。チーム員は認知症専門医と看護師、社会福祉士など医療・介護の専門職で構成しています。

※チームの「初期」という言葉の意味

- ①認知症発症後のステージの早期段階
という意味だけでなく、
- ②認知症の人への関わりの初期(ファーストタッチ)
という意味を持ちます。

したがって支援対象となるのは、認知症の早期の人に限らず、病状が進行していても医療や介護との接触がこれまでなかった人も含まれます。





Q

初期集中支援チームの支援を受けられるのは どんな人ですか？

安城市在住の40歳以上で、自宅で生活しており、認知症の症状などでお困りの方です。例として、以下のようなケースが考えられます。

- 認知症の診断を受けていない。
- 継続的に医療サービスを受けていない。
- 適切な介護サービスを受けていない。
- 介護サービスを中断している。
- 医療サービスや介護サービスを受けているが、認知症の症状が強いため、対応に困っている。

A



支援内容

- 適切な医療機関の受診を促し、継続的な医療受診ができるように支援します。
 - 状態に応じた適切なサービスを紹介し、利用を支援します。
 - 生活環境の改善やケアについてのアドバイスをします。
 - 介護者や関係機関との情報共有を通じて、フォローアップを行います。
- ※支援はおおむね6か月を目安に行います。



相談窓口

専門の相談員がご相談に応じます。

電話番号	八千代病院 愛知県認知症疾患医療センター内 安城市認知症初期集中支援チーム ☎0566-97-7900 (専用ダイヤル)
受付時間	月曜日～金曜日 8:30～17:00 第2・4・5土曜日 8:30～13:00 ※日曜日、祝日、第1・3土曜日、年末年始は休業



これまでに初期集中支援チームを利用された方の事例をご紹介します。

ケース1



物盗られ妄想が見られ、同居する娘さんを責めるようになったAさん。認知症を疑った家族が病院受診を勧めましたが、ご本人はこれを頑なに拒否していました。そこでチームが介入し、受診へと導きました。認知症の診断を受けたAさんは現在、治療を継続しており、症状は安定しています。デイサービスの利用もされています。

ケース2



ひとり暮らしのBさん。「回覧板が回ってこない」「シルバーカーが盗まれた」「洗濯機が壊れた」と言って、たびたび近所に助けを求めるため、周囲の人は対応に困っていました。そこでチームが介入して病院を受診。認知症と診断され、ひとり暮らしの継続は難しいと判断されたため、ご親族と相談して施設に入所することになりました。自宅では不安感の強かったBさんですが、施設入所後は安心して生活できるようになりました。

副院長・内科部長 小鳥達也医師が、 ミャンマーで消化器内視鏡診療の技術指導

去る8月22・23日、当院副院長兼内科部長の小鳥達也医師が、名古屋大学消化器内科学(代表 後藤秀実教授)が行う医療技術支援プロジェクトの一員としてミャンマーのヤンゴン総合病院に赴き、現地医師に消化器内視鏡診療の技術指導を行いました。

ミャンマーでは、近年の経済成長に伴い高度な医療サービスへのニーズが高まっていますが、病院施設や医療機器の不足・老朽化、医療スタッフ不足が深刻化しており、医療の質を維持することが難しい状況にあります。

とりわけ、増加する消化器疾患に有効な内視鏡診療については、約5,300万人の人口に対して内視鏡医が約100人と絶対的に不足しており、適切な診療を受けられない患者さんが多数存在しています。そうした中、日本の先進的な内視鏡機器を導入し、内視鏡医を育成すること

により、ミャンマーの消化器医療の質向上に貢献しようと発足したのが名古屋大学のプロジェクトです。

名大ではベトナム、タイなどアジア各国で消化器内視鏡の技術支援プロジェクトを展開しており、当院からも医師を派遣して活動に協力しています。

●内視鏡医の比較(平成23年)

	日本	ベトナム	ミャンマー
総人口	1億2,735万人	8,800万人	5,326万人
内視鏡医総数	16,732人	約500人	約100人
人口10万人あたりの数	13.2人	0.5人	0.2人

出典：日本内視鏡学会、ベトナム内視鏡学会
およびミャンマー消化器病学会の情報をもとに作成



写真1

ヤンゴン病院はミャンマーを代表する医科大学・ヤンゴン第一医科大学の附属病院で、病床1500床、医師300名を擁します。他では対応が困難な重篤患者を治療する病院として位置づけられる一方、公的医療機関として貧困層への医療サービスを無料で提供しています。

写真2

現地医師に消化器内視鏡の技術指導を行う小鳥医師。

写真3

ヤンゴン総合病院の内視鏡センターにて。ヤンゴン第一医科大学 Thein Myint教授と名大 後藤秀実教授を囲み、現地医師、日本からの派遣医師とで記念撮影。



当院に新たに着任した医師をご紹介します。



小児科部長

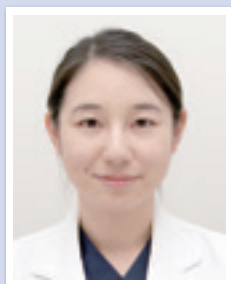
安藤 仁志 (あんどう ひとし)

4月から八千代病院に赴任いたしました、小児科 安藤です。アレルギー疾患(特に食物アレルギー)を専門としています。専門的な医療を提供させていただくことはもちろんですが、患者さんと

そのご家族にとってやさしい小児医療とは何かということを考えながら診療していきたく思います。よろしくお願いします。

【所属学会・資格】

日本小児科学会 専門医/指導医
日本アレルギー学会 専門医/指導医
日本小児アレルギー学会
日本小児難治喘息アレルギー疾患学会
日本リウマチ学会 専門医
臨床研修指導医講習会修了
日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法専門コース修了



小児科

齋藤 彩子 (さいとう あやこ)

昨年より1週間に1回、予防接種外来を担当していましたが、この4月より八千代病院の常勤として赴任することとなりました。まだまだ未熟なところもありますが、頑張りますので、よろしく

お願いいたします。

【所属学会・資格】

日本小児科学会
日本アレルギー学会
日本小児アレルギー学会
日本小児難治喘息アレルギー疾患学会
緩和ケア研修修了
PALS プロバイダー(小児二次救命処置提供者)
日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法専門コース修了



産婦人科

奈倉 裕子 (なくら ゆうこ)

8月より八千代病院の産婦人科に常勤として赴任することになりました。産婦人科医として、1日1日を大切に患者さんの診療にあたっていきたいと思っております。よろしくお願いします。

【所属学会・資格】

日本産婦人科学会
緩和ケア研修修了



外科医長

金子 博和 (かねこ ひろかず)

4月より外科の一員となりました。3月まで名大病院消化器外科1で主に肝門部胆管癌の診療を学んでいました。一般的な外科診療を行うのは実に3年ぶりになります。よろしくお願いします。

ます。

【所属学会・資格】

日本外科学会 専門医



整形外科部長

與田 正樹 (よだ まさき)

膝前十字靱帯再建術件数が全国8位、手術の90%が関節鏡視下手術(膝・肩・足)である三菱名古屋病院で約8年勤務しました。豊田自動織機(ラグビー)、FC岐阜(サッカー)、トヨタ紡織(女子バスケ)のチームドクターをしています。スポーツ整形外科医として、診療と手術をさせていただきます。

【所属学会・資格】

日本整形外科学会 専門医/認定脊柱脊髓病医
日本リウマチ学会 専門医
日本体育協会 公認スポーツドクター
日本医師会 認定産業医
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
日本整形外科スポーツ医学会
日本臨床スポーツ医学会
日本足の外科学会
日本肩関節学会

病院理念／ **最善の医療を提供する**

基本方針／ **1) 患者本位の医療**

2) 地域中心の医療

3) 安全先進の医療

目 標／ **私たちは、クオリティホスピタルを目指します。**

※クオリティホスピタルとは、志の高い病院・質の高い病院・満足度の高い病院です。

モットー／ **親切 親和 信念**